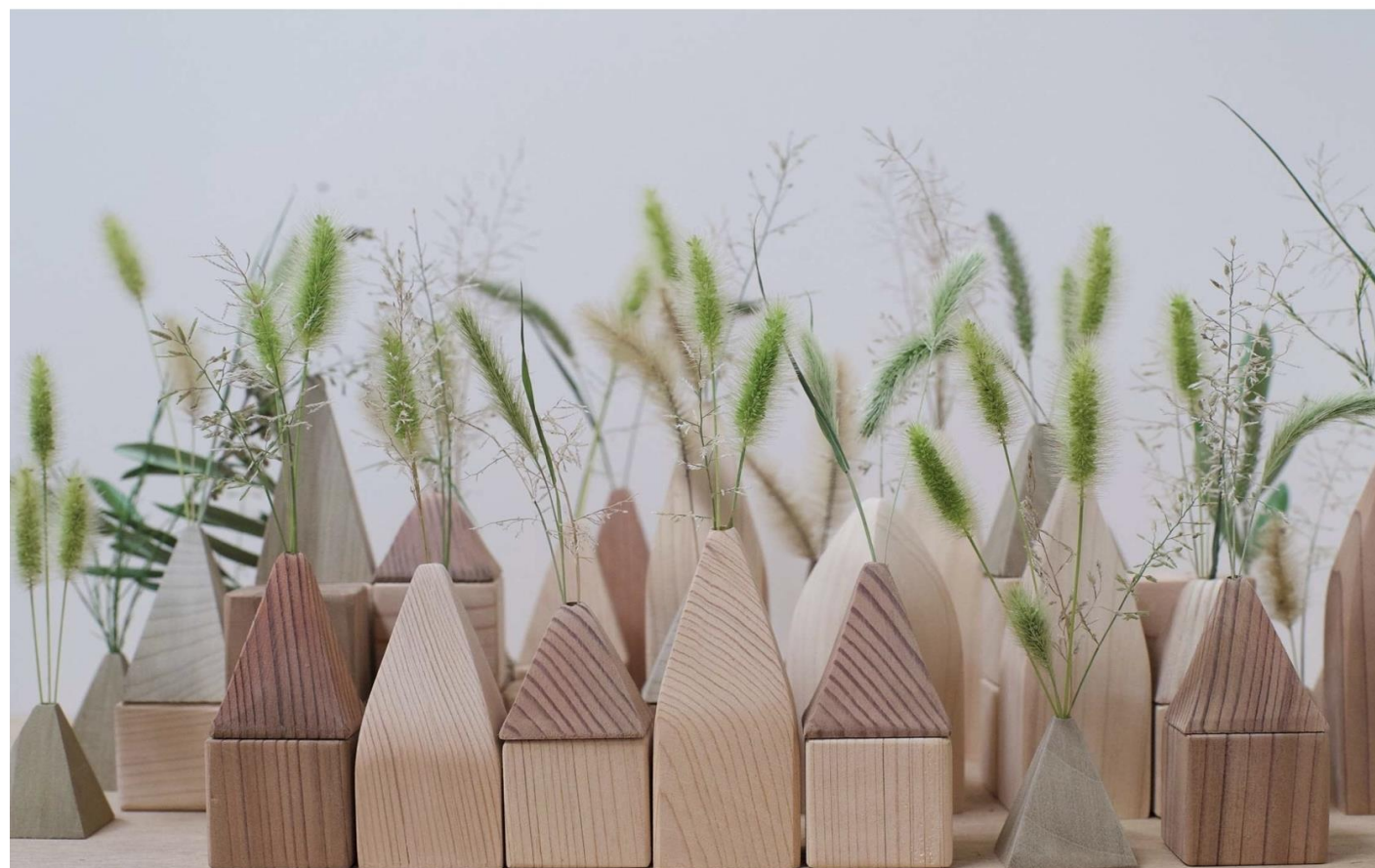


作成名	MITATE Blocks	作成者	MIENOKI (mail : nokinotoy@gmail.com)
作品紹介	<p>子どもが成長して一人遊びができるようになってくると、身近にある物を本物に見立てて遊ぶ「見立て遊び」が始まります。「ごっこ遊び」や「おままごと」も見立て遊びの一種です。「MITATE(みたて)」はこの見立てから名前を付けました。このおもちゃは、積み木を組み合わせて家や街のように見立てたり、散歩中に見つけたネコジャラシや枯れ物の植物を花瓶に挿すように飾ったり、色々なものに見立てて遊ぶことができます。年齢を問わず楽しんでいただけるおもちゃです。また、これは子どもとの散歩中に見つけたネコジャラシや枯れものなどの植物を飾っておきたくて製作しました。このおもちゃをきっかけに、親子一緒にゆっくり散歩する時間や、身近な自然を観察する機会が増えたら嬉しいです。</p>		
コンセプト PRポイント	<p>NOKIシリーズでは、木が育った産地がわかるモノづくりをしています。MIENOKIは三重県産材を使った製品で、今回撮影に使用されているのは三重県熊野地方で育った木材です。山からおりてきた木材をベースに生産しようと考えているため、産地や時期にあわせて製品の樹種を変えること、少量生産で色んな木材を加工することを想定しています。木をなるべく無駄にしないことを心がけたことで、今回自然とおもちゃの形もシンプルに、木目など木の個性をより一層楽しめるデザインになりました。</p>		

MITATE Blocks



みたててあそぶ。

【見立てる】とは主に、「あるモノをそれと似たモノで示す」際に使われることが多い言葉(表現)です。枯山水・歌舞伎・茶の湯でもみたては大切な要素になっています。

子どもたちにとって、日常はみたての連続なのかもしれません。「真似っこ」はみたての始まりで、フォークで髪をとかしたり、お茶碗を帽子のようにかぶってみたり。固定概念がないからこそその時にしかみつけられない価値や面白さが生まれます。

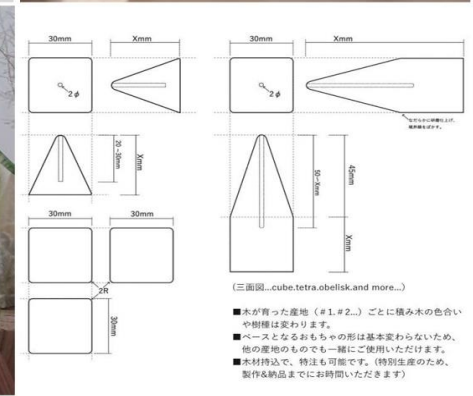
また、このおもちゃで遊んでいる時の一連の動作には、乳幼児期の子どもたちの発達に嬉しい要素がたくさん含まれています。

- ・散歩にでかけて植物を挿む＝五感を刺激・歩く・達成感
- ・ブロックを積む、植物を穴にさす＝想像力・決断力・集中力
- ・完成イメージを目指して試行錯誤＝空間認識能力が育つ
- ・茎を切る、葉を落とす、場所を入れ替える
＝「盆栽」のような動作で右脳と左脳を程よく刺激する

このおもちゃをきっかけに、天気がいい日は時々、子どもたちと一緒にゆっくり散歩にでかけてみませんか？
「きれいだね」「虫がいる」「こんなちっちゃいのと同じ形だ」
身近にある繊細な植物たちをゆっくり観察してみてください。

積み木を組み立てながら「ネコジャラシを植えようよ」「ここに街が欲しいね」「ひなたぼっこしたいから引っ越そうか」なんて子どもたちと自由に物語をつくりながら、たくさんおしゃべりも。

綺麗に並べることができた時は、あえてしばらくそのままに。
朝昼晩、いろんな光に照らされてできる植物の影も綺麗ですよ。



全てのパーツは『30mm×30mm』の角棒を基準に製作されています。図面で決まっているのはベースとなる規格のみで、仕上がった製品の形はそれぞれの木材に合わせて加工されます。曲がった木でも、節や白太があっても、製材された後に残った小さな木材でも。この製品では「個性」ととらえ、受け入れていけたらと考えています。

今回撮影で使用したのは【MIENOKI#1】熊野で自伐型林業を営む崇剣(Takaken)さんが育てた木です。木目の細かな美しいヒノキをベースに、ホオ・サクラ・スギなどの様々な樹種を使用しています。販売はブロック1つずつでも可能です。基本無塗装なので、木の肌触りや香りも楽しむことができます。

実際、子どもたちは無個性な木目よりイレギュラーな木目や節に興味を持ってくれることが多いです。「倒れた」「いい音」「いい香りがする」「こうしてみたらどうなるかな?」「ひとりでもできた!」そうした静かな刺激の積み重ねが、子どもの自己肯定感と感性を育てる大切な時間になっていきます。

そして、このおもちゃは4歳以上を適齢と設定していますが、しっかりと自分で姿勢を維持して両手を使うことができる頃で保護者が隣で見守りながらであれば、もう少し小さなご年齢のお子さまでも遊ぶことができると考えています。（撮影当時1歳8か月だった我が子は、積み木を横む動作、小さな穴に茎を通す動作を何度も何度も真剣に…ひとりでもできたら、ニコニコと手をたたいてご満悦の表情でした。）